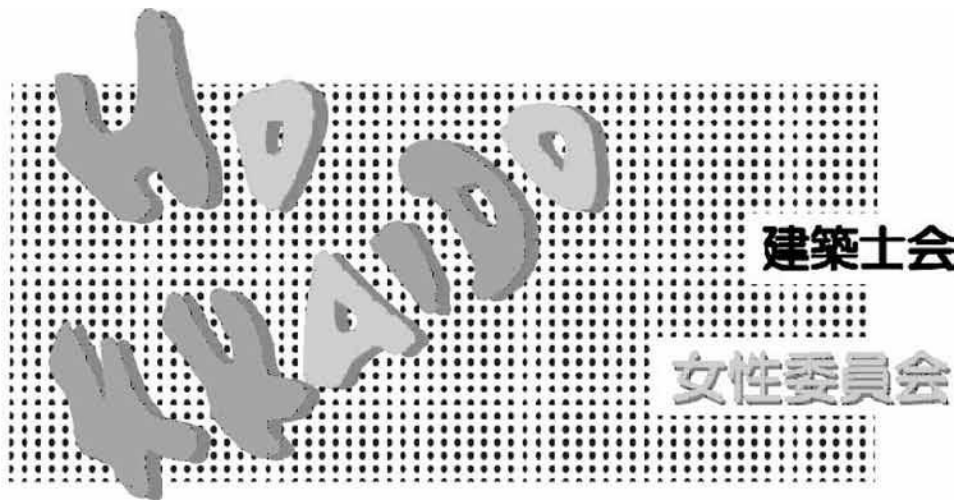


No. 52



たすきを繋ぐ

女性委員長 **本間 恵美**

三が日は実業団、箱根と駅伝三昧で過ごしました。解説者が、前走者が快走でたすきを渡すと、次走者もいつもより成績が良いですねと言っていたのが印象的でした。

今年度から女性委員長をさせていただき事になりました。委員の顔ぶれはほとんど変わりませんが、役割が少し変わります。副委員長に工藤美智子さん（札幌支部）、金子ゆかりさん（釧路支部）、連合会委員には東道尾さん（札幌支部）がなります。他の委員も皆てきぱきと動いてくれるので、安心のサポートをしてくれるでしょう。

連合会の委員を4年間させていただき、全国から集まった委員から多くのことを学び経験しました。昨年7月には、宮城県仙台市から石巻市にかけて震災の爪跡を視察し、その現実がすぐには受け入れられなかった事を覚えています。昨年の全道大会にも来てくださった今野宮城県女性委員長が、「皆さんにこの現実を見て、感じて欲しいんです。」と言った言葉が忘れられません。福島県在住の友人から「復興元年」と書いた年賀状が届きました。これは地震や原発の被害を受けた人々だけのことで無く、今年は皆が心に刻まなければいけない言葉でしょう。

歴代女性委員長を経て、早川前女性委員長からとても良い形で受け取ったたすきです。今までの委員長が築いてきた良いところをそのままに、新しい事にも挑戦していきたいと思っています。次にも笑顔でたすきを渡せるように。



美味しくて楽しかった忘年会

平成23年度 全国女性建築士連絡協議会 京都大会 事例報告に向けて

道南B（室蘭支部） **高木 宣恵**

平成24年2月17(金)～18(土)の2日間、平成23年度全国女性建築士連絡協議会 京都大会が開催されます。

北海道の活動事例報告は、F分科会＜子どもと住環境＞で行うことができるようになりました。

当日は、札幌支部の新海直美さんと私で事例発表をさせていただきます。

今回の京都大会では、分科会の前に、分科会ごとのテーマにそったフィールドワークが設定されており、F分科会では、京都明倫学

区の子どもの暮らし今・昔、というテーマで、約3時間、京都の街を歩く予定です。

明倫学区は、平安京以来、京都の商業・経済の中心地で、問屋街として、商いと住まいが共存する暮らしが育まれた地域の様です。その街並みの中で育まれてきたコミュニティの再生などを見学してきます。

北海道にはない、長い歴史の中で培われた文化や伝統の受け継ぎ方などが、これから、北海道の住文化を伝えて行くやり方の参考になるのではないかと、今からとても楽しみです。

フィールドワークの後、各分科会が開かれ、F分科会＜子どもと住環境＞の中では、2つの事例発表があり、その1番目に私たちが発表をさせていただきます。

事例発表では、平成11年からの子どものテーマとした取り組みの後、「女性建築士と考える 子どもをはぐくむ住まいづくり」という冊子を発刊し、それをきっかけに活動が広がり、中でも、高校の家庭科の先生たちとの4年に渡るセミナーを開催してきたことを主に発表をしてくる予定です。

高校の先生たちとのセミナーを通し、生の現場の先生から意見をもらう中で見えてきた課題や今後の展望についても報告し、各地の方々からご意見をいただきたいと思っています。